

marie claire

marieclairejapon.com

22nd February, 2023
No.170



Be Happy

輝く女性たち

本サービスを利用した営利目的の活動行為、
あるいは本サービスを通じて入手した情報を
複製、販売、出版その他
私的利用の範囲を超えて使用する行為の
一切を禁止します。

Contents

- 5 Welcome to marie claire /
- 6 Cover Story: Julia Roberts /
- 8 Style Picks: New Natural /
- 9 Style Picks: Mesh Touch /
- 11 Art: Espace Louis Vuitton / Wolfgang Tillmans & Alberto Giacometti /
- 12 CHRISTIAN DIOR DESIGNER OF DREAMS /
- 14 International Women's Day, shop list

cover

photo: Alexi Lubomirski
 realization: Agathe Gire
 styling: Elizabeth Stewart (The Wall Group)
 assistant: Jordan Grossman
 seamstress: Natalya Aghajanyan
 hair: Genevieve Herr (Sally Harlor)
 make-up: Lancôme / Serge Normant (Statement Artists)
 set design: Jack Flanagan (The Wall Group)
 assistant: Amy Sabel and Andrea Reed (The Wall Group)
 production: Nathalie Akiya (GTS Prod)
 assistant: Raz Segal, Stefan Nolte, Zach Perry, Eduardo Meza, Spencer Wilson and Varsh Farazdel
 jacket: Acne Studios, t-shirt: MKT Studio

marie claire

2023年2月22日発行 第12巻 第2号(通巻170号)

発行人 Publisher:
 安部順一 Junichi Abe

編集長 Editor in Chief:
 田居克人 Katsuto Tai

副編集長 Deputy Editor in Chief:
 高橋直彦 Naohiko Takahashi

アートディレクター Art Director:
 木村裕治 Yuji Kimura

ビジネススペシャリスト Business Specialist:
 斉賀明宏 Akihiro Saiga

編集部 Editorial Team:
 部長 Manager:
 横山恵子 Keiko Yokoyama

大林理子 Riko Obayashi
 高波麻奈美 Manami Takanami
 菊池美裕紀 Miyuki Kikuchi
 阿部未侑加 Miyuka Abe
 マルチンバイヤル ホストツェグ Malchinbayar Khosttseg

パリ特派員 Paris Correspondent:
 須山佳子 Keiko Suyama

デザイン Design:
 木村裕治 Yuji Kimura
 佐藤 幹 Miki Sato

発行 Publication:
 読売新聞東京本社
 〒100-8035 東京都千代田区大手町1-7-1
 tel: 03-6739-6303
 THE YOMIURI SHIMBUN

記事制作 Production:
 中央公論新社
 〒100-8132 東京都千代田区大手町1-7-1
 tel: 03-5299-1810
 CHUOKORON-SHINSHA, INC.

印刷 Printing:
 共同印刷
 KYODO PRINTING CO.,LTD.

MARIE CLAIRE INTERNATIONAL
 Executive director:
 Jean de Boisdeffre
 Deputy director:
 Félix Droissart
 Deputy director (marketing and special operations):
 Nicia Rodwell
 International editorial director:
 Séverine Harzo
 International fashion and beauty chief editor:
 Sylvie Halic
 International commercial director:
 Elodie Bretaudeau Fontelles
 International deputy commercial director:
 Elisabeth Barbier
 Syndication director:
 Thierry Lamarre

©MARIE CLAIRE ALBUM 2023
 ©THE YOMIURI SHIMBUN 2023
 本誌掲載の記事・写真・イラストの無断転載を禁じます。
 ※本紙に掲載されている商品の価格は
 特記されている場合をのぞき、すべて税込です。



Welcome to marie claire vol.170

弊

誌でも2号にわたり紹介していますが、現在、東京都現代美術館で「クリスチャン・ディオール、夢のクチユリエ」展が5月28日まで開催されています。

2017年にパリの装飾芸術美術館で開催された際に見に行きましたが、その時よりもさらに見やすく、また展示のしかたもバージョンアップし、見ごたえのある展示になっています。展示の空間デザインはニューヨークを拠点に活躍する建築家、重松象平氏によるもの。

この展示は世界の各都市をまわり、その都市にふさわしい方法で展示されているのですが、本当に「クリスチャン・ディオール」の歴史やクリエイションを理解しやすい展示になっています。

「ディオール」といえば、個人的な思い出もあります。

パリのアベニュー・モンテーニュにある本店は最近大規模にリニューアルされましたが、改装される何年前、この建物の最上階にある、クリスチャン・ディオールの仕事部屋兼プライベートルームを見せていただき、そこで食事をする機会がありました。グレーのトーンで落ち着いた室内のディオールのデスクには、親交のあったジャン・コクトーからの手紙や写真、スケッチが並べられ、壁に飾られていた絵などからは日本の文化から大きな影響を受けていたのもよくわかりました。

クリスチャン・ディオールは、日本に一番早く進出した海外のファッションデザイナーであり、ファッションブランドです。



1947年に発表された「ニュールック」の象徴バジャケット

第2次世界大戦終了からまだ間もない1947年、クリスチャン・ディオールは初めてのコレクションを発表しました。長い戦争の間、モードは忘れ去られ、実用的な衣服がほとんどであった世界に、その革新的で創造性あふれるコレクションは「ニュールック」とよばれ、圧倒的な支持をもって迎えられ、彼のファッション界での地位を決定づけました。またその時に発表されたバジャケットは現代でも形を変えて作り続けられるアイコンアイテムとして有名です。

1953年には日本に初上陸し、パリから伴ってきたモデルによる本格的なファッションショーを各地で開き、ファッションの黎明期であった当時の日本に強烈な印象を残しました。ショーを見に行かれた方々の中には、ファッションに興味を持たれていた高松宮妃殿下や当時駆け出しのデザイナーだった森英恵さん、後に36年間にわたり美智子様のデザイナーを務められた植田いつ子さんもいました。森英恵さんは後年「あの時、目が覚めた」と語っています。また植田さんは「デザイナーの道をしっかり歩もうと心に決めた瞬間だった」と。

クリスチャン・ディオールは、その翌年には日本をテーマにした作品を発表。使用された生地は京都の老舗織物「龍村」のものでした。こうした日本に対する深い理解とそのクリエイションは世界中から喝さいを浴びたのです。日本との関係はさらに続きます。

1959年、現在の上皇陛下が皇太子の時代、ご成婚の際に美智子様のため、クリスチャン・ディオールにローブデコルテを3点依頼されたのが有名なエピソードとして伝えられています。ディオール本店を訪れた高松宮妃殿下がディオールに依頼されたそうです。

残念ながら52歳で急逝したディオールにかわり、後継者となったまだ若きイヴ・サンローランがクリスチャン・ディオールのデザイン画をもとに完成させました。そのローブデコルテは着物からインスピレーションを受けたものでした(余談ですがティアラ、イヤリング、ネックレスの製作はミキモト、デザインは私の父によるものでした)。

世界最大のラグジュアリーブランドのグループであるLVMH(モエ・ヘネシー・ルイ・ヴィトン)の歴史にも「クリスチャン・ディオール」はかかわっています。経営不振に陥った「クリスチャン・ディオール」社を現在のLVMHの会長である、ベルナール・アルノー氏が引き継いだところから、LVMHグループはさらに大きく成長していったのです。そのためアルノー氏にとって「クリスチャン・ディオール」は、LVMHグループが保有する数多くのブランドのなかでも特別な存在であるのではないのでしょうか。

世界のファッション史のなかで燦然と輝きを放つ「クリスチャン・ディオール」。そのクリエイションにかかわったデザイナーはまさにモードの歴史を体現している人たちばかりです。クリスチャン・ディオールに始まり、イヴ・サンローラン、マルク・ボアン、ジャンフランコ・フェレ、ジョン・ガリアーノ、ラフ・シモンズ、マリア・グラツィア・キウリ。

この歴代のデザイナーたちの作品を一堂に見ることができ、また日本とのかかわりも再発見できる「クリスチャン・ディオール、夢のクチユリエ」展。モード、ファッションに関心のある方にはぜひ見ていただきたいと思います。

2023年2月22日

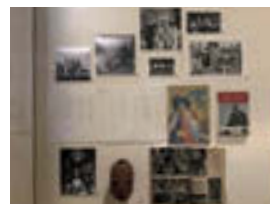
Katsuto Tai

田居克人
 Katsuto Tai, marie claire 編集長

参考資料:「ディオールと華麗なるセレブリティの物語」川島ミ子(講談社)、
 「東京ファッションデザイナー協議会20年の歩みと戦後日本ファッションデザイナー誕生記」(東京ファッションデザイナー協議会)



©marie claire Japon
 圧倒的な迫力で迫ってくる展示



日本との関係を示す記事やデザイン画も展示





Julia Roberts

自分の笑いジワを愛しいと思う！ ジュリア・ロバーツの幸せな微笑みの秘密

Cover Story

世界で最も人気があり、幅広い世代から愛され続ける女優ジュリア・ロバーツ。昨年10月に55歳を迎えた彼女は、『プリティ・ウーマン』(1990年)、『ノッティングヒルの恋人』(99年)、アカデミー賞主演女優賞に輝いた『エリン・ブロコビッチ』(2000年)、『オーシャンズ』シリーズ(01年～)など錚々たる作品に出演し、30年以上のキャリアを持つ。この10年間、「ランコム」の香水「ラヴィエベル」のアンバサダーも務めている。生まれながらの楽天主、素直でストレート、限りなく穏やかで楽しい彼女が、家族、人生、仕事について語る。

▶marieclairejapon.com

撮影監督ダニエル・モダーと結婚20周年を迎えられたそうですね。結婚生活が長続きする秘訣は？

愛と信念……。それは運命の人に巡り会えたからこそ得られるもので(実際それが最も難しいのだけど)、もしその人と出会えたら、もうそれだけで幸せね。本当にそんなにシンプルなことでしょうか？ 時の経過とともに関係性が悪化したり、どちらかが異なる道を選ぶ可能性についてはどう思いますか？

ダニエルと私は、自分たちのことを理解できる成熟した年齢に出会い、同時にまだ一緒に成長したいと思える若さがあったわ。確かに知り合った頃は、常に同じ方向を向いていけるか未知数だったけど、恋愛を深める中でその選択が正しいと確信した。友人が「美しい物語」を生きたければ、その中に居続けること!という名言を残したけど、まさにその通りで、美しいラブストーリーは長く持続させることが重要ね。あなたの笑顔はハリウッドで有名ですね。カメラの前でもそれ以外でもいつも晴れやかに明るい雰囲気を出していますが、機嫌が悪くなったり怒ることはありますか？

私はアーティストだから、繊細さや感情的な部分も持っている。もともと樂觀的な性格だけど、もちろん嫌なことや我慢できなくなることはあるわ。3人のお子さんの母でもあり、日頃からご自身のことを「専業主婦」と称されていますね。女優としての成功の絶頂期に出産して一時休業し、主婦業を選択したのはなぜですか？

幸運にも私は何が何でも成功を追い続けなければならない、という気持ちが収まった時期に最初の子どもを授かったの(2004年)。18歳からがむしゃらに働いてきたので、少し休むべきだと思ったわ。今まで自分が築き上げたプロとしての成功に満足して、別の自分の人生を育みたくなった。出産後すぐに仕事復帰を余儀なくされた友人たちもいたから、家でゆっくり子どもたちの成長を見守ることができたのは幸運だった。働きながら私を育ててくれた母には頭が上がらない。だからこそ、夜中に子どもの夜泣きで寝不足が続いておかしくなりそうな時、同じ状況でも次の日仕事に行かなければならない人たちのことを考えたわ。子育ては信

じられないほどやりがいがある冒険だけど、24時間体制の仕事でもあるから、世の中のお父さんやお母さんは現代のスーパーヒーローね!

50代は女性の新黄金時代だと言われていますが、あなたはどう思いますか？ どんなふうにご過ごすかによって変わるけれど、正しいと思う。先輩女優のアヌーク・エーメに「50歳になるまでどんな人生を過ごしてきたかであなたの顔が決まる」という素敵な言葉を教えてもらったのだけれど、まさにこの通り。私は自分の笑いジワを愛おしいと思うの。だって、家族と夕食をともにし、冗談を言い合って、笑い合う、このシワにたくさんの思い出が詰まっている。もちろん朝起きて、違う顔になりたいって思うこともあるわよ。

最近演じている役柄は30、40歳の頃に比べて多彩になったと思いますか？ 経験を積んだことによって以前とはもちろん違うと思う。今まで幸運にもコメディ、ドラマ、スリラーといった様々な種類の映画に出演できたわ。ドラマ「ガスリット 陰謀と真実」(22年配信スタート)のおかげでショーン・ペンと出会い、映画『チケット・トゥ・パラダイス』(22年)の撮影でジョージ・クルーニーとオーストラリアに行って、他ではできない体験ができてとても嬉しかった。ジョージとは5作目の共演になるかしら。これからもこのコンビの作品を皆さんにお届けしたいわね。

今後どんな役を演じていきたいですか？ この質問に答えるのは難しいのだけれど、私は自分に適しているからその役が来ると思っていて、その逆を考えたことがないの。いろいろな解釈があってよいし、自分の解釈を押し付けるタイプじゃないの。

あなたがミューズを務める「ランコム」の香水「ラヴィエベル」が10周年を迎えましたね？

私は香水の世界を全く知らなかったのだから大きな冒険だったのだけれど、最高の香りと美しいボトルで10年間、競争の激しい香水業界でチャレンジを続け、成功できたのは喜ばしいこと。今でも、この香水を身につけるたくさんの人たちに幸福を与えることができてると自負しているわ。

双子座 Gemini 5月21日～6月21日★理想の世界が創られる時。今いるその場所で自分が幸せになれる選択をしましょう。周りを変えようとするより、自らの考えや行動を変えることによって自分が望む世界、現実はやってきます。

photos: Alexi Lubomirski
interview & text: Aurélie Lambillon
realization: Agathe Giro
styling: Elizabeth Stewart(The Wall Group)
assistant: Jordan Grossman
seamstress: Natalya Aghajanyan
hair: Genevieve Herr (Salty Harlor)
make-up: Lancôme / Serge Normant (Statement Artists)
set design: Jack Flanagan(The Wall Group)
assistant: Amy Sabel and Andrea Reed(The Wall Group)
production: Nathalie Akiya(GTS Prod)
assistant: Raz Segal, Stefan Nolte, Zach Perry, Eduardo Meza, Spencer Wilson and Varsh Farazdel

〈cover & P.6〉ジャケット パンツ[ともに参考商品](ともにアクネ ストゥディオズ / アクネ ストゥディオズ アオヤマ) Tシャツ[参考商品](MKT Studio) サンダル¥54,890(ビルケンシュトゥック / ビルケンシュトゥックジャパン カスタマーサービス) (P.7)Tシャツ[参考商品](ハコ ラバンヌ / エドストローム オフィス) パンツ[参考商品](The Frankie Shop) プレスレット リング ピアス[すべて私物]





左 Hermès クラフトマンシップが宿るクロシェ編みのニットもクロップ丈で旬顔に。同トーンのリザーパンツとプラットフォームシューズでエッジを利かせて。ニット¥586,300、パンツ¥1,265,000、肩から掛けたコート、靴【ともに参考商品】(すべてエルメス/エルメスジャポン)
上 Chloé 手編みのシルクニットを大胆なオープンワークで仕上げたデザインが目を引くマキシドレス。シルクカーゴのプリントがスタイリッシュ。ドレス¥645,700、靴¥103,400(ともにクロエ/クロエ カスタマーレレーションズ)
右 Mame Kurogouchi 体に寄り添う立体感が特徴のマーマイドドレスは花籠がモチーフ。竹ひごで1本1本編まれているような繊細な繋がりをコード刺繍で表現。ドレス¥365,200、靴¥46,200(ともにマメ クロコウチ)

Mesh Touch

クラフト感漂うメッシュデザインに注目

Style Picks
 realization: Maki Kimura

フィッシュネットやクロシェ、マクラメなど、ハンドクラフトの温もりとリラックスした抜け感のあるメッシュデザインが今季は豊作。モダンなムードを放つ最新作は、シティでも大活躍！

1.Chanel ストッキングをドッキングしたような今季を象徴するブーツ。ワンポイントのリボンもメッシュ仕上げ。靴【H9】¥354,200(シャネル/シャネル カスタマーケア) **2.Jil Sander** ざっくりと編んだコットンツイードの抜け感とバンパーハンドルが相まってリラックスした雰囲気。バッグ「メディアム トートバッグ」【W32×H41×D2】¥386,100(ジル サンダー バイ ルーシー アンド ルーク・メイヤー/ジルサンダー・ジャパン) **3.Balenciaga** 春先の足元はラインストーンのキラキラとピンクメッシュで気分を上げて。靴【H8】¥621,500(バレンシアガ/バレンシアガ クライアントサービス) **4.Longchamp** グランピング先のビーチをイメージしたグリーンカラーがコーデのワンポイントにぴったり。バッグ「プリアージュ® フィレ」【W17×H18】¥13,200(ロンシャン/ロンシャン・ジャパン) **5.Giorgio Armani** リラックス感のある手編み仕立てながら光沢のあるフランとパターンの切り替えデザインでエレガントに。バッグ【W29.5×H16.5×D4】¥264,000(ジョルジオ アルマーニ/ジョルジオ アルマーニ ジャパン) **6. Anya Hindmarch** ブランドの人気モチーフであるカエルをラフィアとレザーで表現。動くたびに揺れる手足がキュート。バッグ「フロッグ クロス ボディ」【W18×H18×D8】¥63,800(アニヤ・ハインドマーチ/アニヤ・ハインドマーチ ジャパン) **7.Stella McCartney** 一気にトレンド感がアップするヌーディなフィッシュネットサンダル。ストラップや編み目の切り替えによってフィット感も◎。靴【H10】¥137,500(ステラ マッカートニー/ステラ マッカートニー カスタマーサービス) **8.Lanvin** ヴィヴィッドなオレンジのマクラメに蜂のビジュアールが華やかさを添えて。バッグ「マクラメ バイ ランバン バケットバッグ」【W28×H26】¥365,200(ランバン/ランバン コロネット)



左上 Max Mara ワークテイストのブラウスとロングフレアスカートのセットアップは加工や染色をしていないリネンを使い、リラックスした雰囲気を演出。ブラウス¥92,400、スカート¥165,000、靴【参考商品】(すべてマックスマラ/マックスマラ ジャパン)
右上 Bottega Veneta ドライタッチな素材感にナチュラルムードが漂う濃淡ベージュのシャツとパンツで完成させたセットアップ風スタイル。シャツ¥319,000、パンツ¥159,500、バッグ(ベージュ)¥231,000、靴、バッグ(レッド)【ともに参考商品】(すべてボッテガ・ヴェネタ/ボッテガ・ヴェネタ ジャパン)
右下 The Row ミニマルなノーカラージャケットとラインスカートを組み合わせて、コットンリネンの風合いが柔らかな表情をプラスして。ジャケット¥328,900、スカート¥185,900、靴¥159,500、バッグ【参考商品】(すべてザ・ロウ/ザ・ロウ ジャパン)

New Natural

モダンに取り入れるナチュラルムード

Style Picks
 realization: Maki Kimura

自然回帰やクラフトマンシップを感じさせるナチュラルテイストが、今季はより洗練されたムードに進化。ラフィアやキャンバス、コットンのアイテムで軽やかさと今っぽさをプラスして。

1.Dior 立体感のあるクロシェ編みの花々に手作業の温かみが宿る。バッグ「ディオール ブックトート」【W26.5×H21×D14】¥730,000(ディオール/クリスチャン ディオール) **2.Celine** アイコンバッグも抜け感のあるラフィアで軽やかにアップデート。バッグ「トリオンフ チェーンショルダーバッグ」【W20.5×H10.5×D4】¥462,000【予定価格、3月発売予定】(セリーヌ バイ エディ・スリマン/セリーヌ ジャパン) **3.Gucci** 落ち着いたキャンバス地にゴールドのハードウェアが映えるハーブムーン型の新作。バッグ「アフロディーテ」ショルダーバッグ【W39×H38×D2】¥258,500(グッチ ジャパン) **4.Balenciaga** ナチュラルな風合いながら光沢のある素材と、ハンドルまでシームレスに仕上げたミニマルな印象に。バッグ「イビザ M バケット」【W44×H22×D18】¥159,500(バレンシアガ/バレンシアガ クライアントサービス) **5.Loewe** 柔らかいラフィア素材ながら、かっちりとしたフォルムで都会的な仕上がり。バッグ「スタンダード A5-トートバッグ」【W17×H21.5×D6】¥155,100(ロエベ/ロエベ ジャパン クライアントサービス) **6.Tod's** クロシェ編みの花柄がクラフト感溢れるスリッポン。靴【H3】¥116,600(トッズ/トッズ ジャパン) **7.Valentino Garavani** ピンク、ホワイト、ベージュのライトなトリコロールのウエッジソールが新鮮。靴「ロックスタッズ」【H9.5】¥126,500(ヴァレンティノ ガラヴァーニ/ヴァレンティノ インフォメーションデスク) **8.Saint Laurent** ミニマルなアイコンバッグもキャンバス地でリラックスムード。バッグ「LE 5 À 7 ショルダーバッグ」【W23×H16×D6.5】¥273,900(サンローラン バイ アンソニー・ヴァカレロ/サンローラン クライアントサービス) **9.Burberry** 黒のリザートリムでラフィアもモード顔に。バッグ「モングラム ラフィアエフェクト ミニ フレートード」【W23.5×H20×D9】¥213,400【予定価格、3月発売予定】(バーバリー/バーバリー ジャパン)

エスパス ルイ・ヴィトンで出会う コレクションから厳選されたアート

text: Saya Tsukahara

東京と大阪のエスパス ルイ・ヴィトンで、2つの展覧会が開催中だ。
東京ではヴォルフガング・ティルマンズの写真が空間を作り上げ、
大阪にはアルベルト・ジャコメッティの彫刻が立ち並ぶ。注目の展示を訪ねて。

Wolfgang Tillmans ヴォルフガング・ティルマンズが捉えた 日常にある不滅の瞬間



FLATSEDGE (2019年)
インクジェットプリント / 207 × 138.1 cm

© Wolfgang Tillmans
Courtesy of the Fondation Louis Vuitton



HAIRCUT (2007年)
発色現像方式印画光沢仕上げ / 60.8 × 50.6 cm
© Wolfgang Tillmans
Courtesy of the Fondation Louis Vuitton



SUMMER PARTY (2013年)
インクジェットプリント / 135 × 202 cm

© Wolfgang Tillmans
Courtesy of the Fondation Louis Vuitton



STILL LIFE, BOURNE ESTATE (2000年)
ゼラチン・シルバー・プリント / 135 × 200 cm
© Wolfgang Tillmans
Courtesy of the Fondation Louis Vuitton

展覧会情報

ヴォルフガング・ティルマンズ 「Moments of Life」展

会場: エスパス ルイ・ヴィトン東京
東京都渋谷区神宮前5-7-5 ルイ・ヴィトン表参道ビル7階
会期: ~6月11日
開館時間: 11:00~19:00
休館日はルイ・ヴィトン 表参道店に準じます。
入場無料
会場内の混雑防止のため、入場をお待ちいただく場合がございます。
事前来館予約も承ります。
espacelouisvuittontokyo.com
お問い合わせ先: 0120-00-1854

パリのフォンダシオン ルイ・ヴィ
タンは、2007年以降、ティルマンズ
の作品を収集し、30点を超える作品を所
蔵している。本展ではそのうちの21点が
並ぶ。多くは花や観葉植物、友人、窓辺
など、身近な存在を被写体とした作品だ。
ティルマンズは1980年代から、ポスト
パンク世代の若者や音楽におけるカウ
ンターカルチャー、ゲイコミュニティを捉え
た写真作品を発表してきた。自身の時代
やコミュニティを写し取ることに、こ
のように語っている。

「芸術は同じ主題を何千年も扱ってき
ました。唯一違いを生み、正当性を与え
るのは自分の生きている時代だけだと思
います。自分が所有できて過去の世代と
異なるものはそれだけです」
対象を写すにあたって人為的な演出
は避けられ、何気ない一瞬を捉えたよう
に見える。背後から撮影されたポートレ
ート《HAIRCUT》は、被写体が特定でき
ないがゆえに親近感をもたらす。静物写
真においては、「一番初めの置き方」を大
事にするという。一方で、たとえば《STILL

LIFE, BOURNE ESTATE》は17世紀
のオランダ絵画を想起させるコンポジ
ションだ。一見すると、自然のままに写し
たようでありながら、静物画、肖像画、風景
画といった伝統的なジャンルに立ち戻っ
ている。
また、コピー機での拡大印刷や暗室で
の抽象表現など、技術面の実験も行い、
写真の表現を拡張してきた。展示作品
のサイズは大小さまざまで、額装されて
いるものもあれば、そのまま壁に貼り付け
られたものもある。ティルマンズは、写真は

単なる画像ではなく三次元のモノであ
り、ギャラリーを実験室だと考えている。
「昔から常に写真はモノであると考えて
いました。写真は実際の空間的な物体で
す。とても薄いのが空間を占領する。写真で
空間を作り上げることができます」
ティルマンズの写真が構築する空間
に、しばし身を委ねてはいかがだろうか。
Wolfgang Tillmans
ヴォルフガング・ティルマンズ
1968年、ドイツ生まれ。ベルリンとロンドンを拠点に活動す
る。80年代から雑誌「i-D」などで写真作品を発表。2000年、
ターナー賞を受賞。15年、ハッセルブラッド国際写真賞受賞。

Alberto Giacometti 20世紀を代表する彫刻家アルベルト・ジャコメッティの描く人間像

ジャコメッティを象徴する7点の彫
刻作品が、エスパス ルイ・ヴィ
トン大阪にやってくる。スイスに生まれた
ジャコメッティはパリに移り住み、モンパ
ルナス界隈で活動。初期はシュルレアリ
スムの作家として知られたが、やがて人
物モデルと向き合い、独自の人間像を模
索し始めた。見たままに造形できないとい

う葛藤の中で、極限まで削ぎ落とされた
フォルムにたどり着く。人間の真の姿を
追求し、身体の重さから解放された人物
彫刻を目の当たりにしたい。
Alberto Giacometti
アルベルト・ジャコメッティ
1901年、スイスに生まれ、パリを拠点に活躍した彫刻家・
画家。66年没。スイスの100フラン紙幣の表にはジャコ
メッティの顔、裏には彫刻作品《歩く人》が描かれている。

展覧会情報
「アルベルト・ジャコメッティ」展
会場: エスパス ルイ・ヴィトン大阪
大阪府大阪市中央区心斎橋筋2-8-16
ルイ・ヴィトン メゾン 大阪御堂筋5F
会期: 2月23日~6月25日
開館時間: 12:00~20:00
休館日はルイ・ヴィトン メゾン 大阪御堂筋に準じます。
入場無料
会場内の混雑防止のため、入場をお待ちいただく
場合がございます。事前来館予約も承ります。
espacelouisvuittontokyo.com
お問い合わせ先: 0120-00-1854



GRANDE FEMME II (1960年)
© Succession Alberto Giacometti/Adagp, Paris 2022.
© Fondation Louis Vuitton/Marc Domage
Courtesy of the Fondation Louis Vuitton

射手座sagittarius 11月22日~12月21日★喜びを表現する時、自分の内側が外側に反映されます。自分を軸として望む世界を発信していきましょう。自分の状態、内側を整えて満たすことで、外側の現実世界も後からついてきます。

蠍座scorpio 10月23日~11月21日★自分の人生を生きている時、好きなことに対する純粋な愛のエネルギーや、やりたいことをしている時の情熱のエネルギーを放ち、他人にとっての幸せではなく、自分にとっての幸せを創りましょう。



ファッション史に残る唯一無二の革命を起こした「ニュールック」の象徴「バー」ジャケットをイメージしたモノクロームの空間



アイコン的な白の布で表現されたトワルの数々。メゾンが誇る高度なクチュールを間近で体感できるセクション



ウィメンズ クリエイティブ ディレクターのマリア・グラツィア・キウリによる2020年春夏オートクチュール コレクションのドレス「ニューメロ 220」

展覧会情報

CHRISTIAN DIOR: DESIGNER OF DREAMS
「クリスチャン・ディオール、夢のクチュリエ」

会期: ~ 2023年5月28日(日)

休館日: 月曜日

開館時間: 10:00~18:00(展示室入場は閉館の30分前まで)

会場: 東京都現代美術館(東京都江東区三好4-1-1) 企画展示室 1F / B2F

観覧料: 一般 ¥2,000 / 大学生・専門学校生・65歳以上 ¥1,300 / 中高生以下無料

オンラインチケットは東京都現代美術館のチケットサイトにて購入可能 <https://www.e-tix.jp/mot/>

主催: 公益財団法人東京都歴史文化財団 東京都現代美術館

特別協力: クリスチャン ディオール クチュール

DIOR.COM 特設ページ <https://bit.ly/3jozCTm>

Haute Couture

メゾンの核を担う
オートクチュールの世界に魅了

本展覧会では会場全体を通して、世界最高峰に君臨するクチュールメゾンが築き上げてきた美学を堪能することができる。エントランスを潜った最初のセクションでは、1947年のムッシュ ディオール初のコレクションで発表した「バー」ジャケットが登場。世界的なセンセーションを巻き起こしたそのスタイルは「ニュールック」と称され、メゾンの革新性を世に知らしめた伝説のアイコンだ。ここではメゾンの原点となる「ニュールック」を紹介しながら、歴代クリエイティブ ディレクターたちによって再解釈されたモダンな作品を紹介する。

さらに会場を奥に進むと、曲線が美しいドレスやテイラリングのトワルが壁一面にディスプレイされた白の空間や、贅を極めた35体ものイブニングドレスが壮大なスケールで並ぶ演出など、メゾンの卓越した技術と先駆的なビジョンが堪能できる展示が次々と現れる。「ディオール」の伝統とクリエイションに触れながら、夢の世界に没入できる絶好の機会をお見逃しなく。



歴代クリエイティブ ディレクターによる作品を展示。写真はクリスチャン・ディオールの作品を紹介するスペース



「舞踏会」をコンセプトに、吹き抜けのアトリウムにイブニングドレスを展示した圧巻の演出

CHRISTIAN DIOR DESIGNER OF DREAMS

「クリスチャン・ディオール、夢のクチュリエ」展へ

連載2: 「日本」「オートクチュール」2つのキーワードをひもとく



圧巻のスケールで開催されている回顧展「クリスチャン・ディオール、夢のクチュリエ」展が話題だ。

1,100点を超える貴重なアーカイブ資料とともに、メゾンの豊かな伝統と創造性を

堪能できる同展。今号はディオールと日本の深い絆、さらにメゾンの真髄である

オートクチュールの世界に焦点を当てた展示空間に迫る。

text: Makiko Awata

Dior and Japan

豊富なアーカイブが物語る日本との深い絆

幼少期から生涯を通して、葛飾北斎や喜多川歌麿の浮世絵など日本文化や芸術に影響を受けてきた創設者クリスチャン・ディオール。日本とメゾンの特別な関係は1953年、大丸および鐘紡とパートナーシップを結び、欧米のクチュリエとして初めて日本でコレクションを発表したのが始まりだ。同年には帝国ホテルでファッションショーを開催し、1959年には当時の皇太子妃となる美智子さまのウェディングドレス3着をデザイン。その固く結ばれた絆は、今日に至るまで70年にも及ぶ。

そんなストーリーを物語るセクションでは、繊細で情緒的な日本文化に着想を得た数多くのクリエイションが展示されている。両者の間で交わされた手紙やスケッチ、ショーの資料など、初公開となる貴重なアーカイブ資料も見応え充分だ。さらに日本のランドスケープと「ディオール」のドレスのシルエットをモチーフに、「ねぶた」の技法を用いて作り上げた建築家・重松象平による空間演出にも注目したい。



ジョン・ガリアーノによる2007年春夏オートクチュール コレクションより。(上)ジャコモ・プッチーニのオペラ「蝶々夫人」にインスピレーションを得て制作された作品(右)葛飾北斎の版画「神奈川沖浪裏」をモチーフにしたリネンコート



